

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市原町児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 41,923人(前年度比 117.2%) うち のびすく宮城野利用者20,024人(内訳 ひろば18,465人 一時預かり1,559人) 令和4年度 35,778人 うち のびすく宮城野利用者14,157人(内訳 ひろば12,507人 一時預かり1,650人) 令和3年度 28,776人 うち のびすく宮城野利用者9,273人(内訳 ひろば8,159人 一時預かり1,114人)	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 67,020千円 (66,096千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 3,796千円 (3,872千円) ・ その他収入 23千円 (10千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者会を実施。	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 また、令和5年度においては努力義務である安全計画を策定し、児童・利用者への安全教育や事故・災害時の対応の共有、事故防止のための体制の構築に努め、利用者の安全確保に繋げている。	31/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	25/25

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>市内で唯一ののびすく併設の児童館として、地域と協働で事業に取り組んだ。</p> <p>児童健全育成は、原町小学校と宮城野中学校へ利用のチラシを配布周知し、利用者の増加に繋がった。児童の主体性を捉え「飛び出せ児童館」や「プラバン作り」「職員との対決企画」を小学生発案で実現し、満足度を高めた。</p> <p>子育て家庭支援は、産前からの対象とした各年齢に応じた事業を開催。理由を問わない託児の需要も高まっている(1,559件)。利用者支援事業等の多様な相談事業(414件)の他に療育ひろば「カンガルーひろば」を通して児童発達支援センターの地域相談へ10件繋ぎ、保護者の不安に寄り添うことが出来た。直接来館が難しい親子支援としてオンライン事業を毎月、遠方地域へ出向く「出張のびすく」を年2回開催。区内6か所の子育て支援センター共催「わくわくひろば」を初めて実施しアウトリーチにも力を入れた。</p> <p>地域交流推進は、商店会「七夕飾り展示」「ハロウィンパレード」や複合館の施設活用を始め、震災復興事業、空間アトリエ事業、祭のステージ発表、イルミネーション点灯式ハンドベル演奏等、利用者が地域と交流を持てる機会を多く作り、子どもたちが地域に認めてもらうことで、自己肯定感を育んだ。「ウェルカムひろば」「宮城野区支援者交流会」「地域はっぴい子育てプロジェクト」「宮城野区民祭り」等、地域関係機関と密に連携を図りながら館外の活動を多く実施した。</p> <p>児童クラブは、本館とサテライト室のサービス水準均一化を大切に事業及び交流の機会を作った。保護者会主催「おいでよ児童館」では保護者が企画した行事を楽しみ交流を深めた。商店会を仮装して練り歩く「ハロウィンパレード」は地域商店とクラブ親子が顔を合わせ、親睦を含める良い機会となっている。</p> <p>地域の児童館、宮城野区の子育て支援拠点施設(のびすく)として2つの役割を意識しながら充実した運営をすることが出来た。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、小学生対象の「ぷちラッコ」や中高生と小学生対象の「ぷちぶらラッコ」で運動遊びや制作などの遊びを提供し、心身の健康増進や豊かな感性を育てている。また、中高生対象に館内で自由に活動できる時間や場所を設けて、中高生の利用の増加につなげている。</p> <p>地域交流推進事業においては、商店街や市民センター、子育て支援センターなど、地域の多くの機関と連携した協力体制のもと様々な事業を実施している。また、商店街に七夕飾りを作って参加したり、複合館のイルミネーション点灯式でハンドベルを披露するなど、地域に根付いた活動への積極的な関わりを継続して行い、子どもが地域と関わりながら育つ環境作りに取り組んでいる。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、子どもの発達段階に合わせて工夫や改善をしながら、生活の流れや内容を組み立て主体的な生活ができるよう支援している。「おはなし会」や工作、運動遊びなど子ども達の興味関心を広げる遊びや活動を本館とサテライト室それぞれで実施し、子ども達の豊かな感性を育んだり心身の健康増進に努めている。</p> <p>のびすく宮城野では、ひろば事業における乳幼児の好奇心や発達段階に応じたプログラムの提供、理由を問わない一時預かり、地域の子育て関係機関や支援者と連携した相談事業や利用者支援事業の実施などを行い、子育て支援拠点としての役割を果たした。幅広いニーズに対応した様々なイベントも行っており、なかでも多胎児家庭向けの「ツイーンズサロン」、発達に不安をかかえる親子向けの「カンガルーひろば」は、子育て関係機関や民生委員児童委員などと連携することで地域の子育て支援体制の構築に貢献していることや、気軽に交流や相談ができる機会を提供しつつ必要に応じて専門機関へつなげていることが評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>児童館とのびすくの一體的運営という特徴があり、日頃から乳幼児と小中学生が混在する環境だが、スペースや時間帯によって対象者を分けるなど、利用者が安全に楽しむことができるよう努めている。また、幅広い世代に向けた子育て支援情報の提供や、世代間での交流など、特徴を生かした運営を行っている点も評価できる。</p>

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課